北海道通信
昭和26年11月19日第3種郵便物認可
日刊　祝祭日、日曜日、土曜日　休刊
日刊建設版

平成29年7月14日（金曜日）第17722号
発行所　札幌市中央区北5条西6丁目
株式会社　北海道通信社
☎（代）222－3521　FAX 222－3532
発行人　松木康喜
支社　東京6261・3822　旭川23－3267　函館23－7781
釧路23－5241　帯広23－7872　岩見沢24－1937
支局　室蘭21－1735　網走43－3719　小樽23－5115
稚内22－7111　留萌42－2716　苫小牧22－2200
根室24－8028　江差52－0957　倶知安22－5013
（購読料1ヵ月32,400円）

BSC工法の導入を検討

留萌振興農業が法面保護で

【留萌発】留萌振興局農村振興課は、土壌微生物のシート状の集合体であるバイオロジカル・ソイル・クラストを活用した侵食防止工法（以下、BSC工法）を、法面保護に導入するよう検討を進めている。増毛町内の経営体育成型農地整備信砂地区で発生した切土法面において、同工法を活用した試験施工を道内で初めて実施。周辺環境への影響やコスト等を確認し、今後の施工に活用したい考えだ。

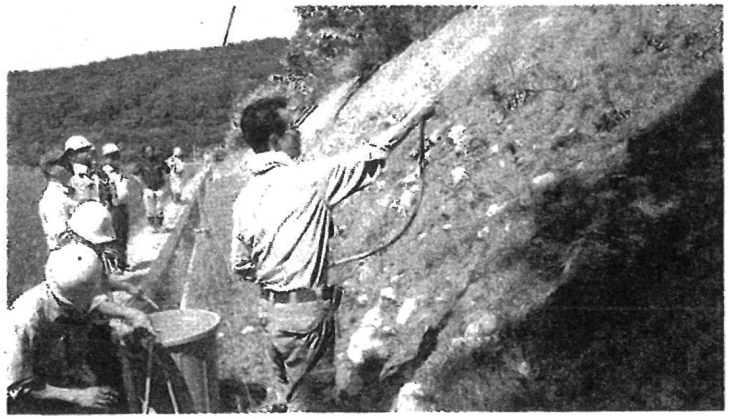
バイオロジカル・ソイル・クラスト（以下、BSC）は、糸状菌類や土壌藻類などが地表面の土粒子等を絡めて形成する土壌微生物のシート状の集合体。植生遷移の初期に見られ、土粒子を巻き込んで繁茂することで土壌表層の撹乱・侵食を抑制し、土壌を安定化する効果がある。

日本工営などが開発

BSC工法は、日本工営㈱が土木研究所と共同開発した技術工法。土壌藻類を培養して乾燥・粉砕したものを散布することでBSCを早期形成し、侵食を防止して周辺の自然植生の侵入を促進する。

同工法を活用することにより、裸地化した崩壊地や急斜面など土壌侵食が発生しやすい環境でも早期にBSCが形成され、自然植生の早期回復、表土保全を図ることができる。また、藻類は地元にも生育する在来種を使用するため、遺伝子撹乱等の影響はない。

日本工営は、これまで同工法を活用した試験施工を沖縄県で実施。赤土等の侵食防止や植生侵入促進効果などが期待されている。



BSC資材の散布は通常の吹付工と同様に行うことが可能

留萌振興局農村振興課は二十七年度に事業化した増毛町の信砂地区について、区画整理等を中心とした工事を推進。信砂地区の土層は石礫を多く含んでおり、施工後の切土法面に多数の石礫が確認されている。法面直下の用水路に土砂・石礫が落下して悪影響を及ぼす可能性があり、受益者から法面対策の要望が寄せられていた。

試験施工を道内で初実施

受益者の要望を踏まえ、法面の土砂安定にかかる手法として、BSC工法の活用を検討。寒冷地での適用性を検証するため、信砂地区の切土法面で試験施工を実施することとした。

同課は今後、BSC工法による植生繁茂と土砂の安定化、石礫落下防止について効果を検証。水田に与える影響や資材コスト等を検討した上で、今後の法面保護にかかる手法の一つとして採用したい考えだ。